

(様式3)

パラスポーツ大会～競技記録会～ (兼 第24回全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会)

## 介助許可申請書

記入例

### 注意

- ・介助申請が認められている区分のみ申請可能（各競技、介助申請が可能な障がい区分は下記のとおり）。
- ・「不安がっている」「緊張している」等、障がいの種類や程度によらない理由での申請は認められない。
- ・介助を希望する選手は、参加申込書に本申請書を添えて提出すること。
- ・申請が認められた介助者には当日、目印となるビブスを配布（予定）するため、必ず身に着けること。

競技	
陸上競技	
障がい区分番号	選手番号（ゼッケンナンバー）
16	104
選手氏名	
ムツ ゴロウ	
介助申請理由	
会話が困難であり、意思伝達が難しいため。	

### 【申請が可能な障がい区分】

陸上競技	原則として、区分番号10, 16, 17, 23, 24, 25。場合によっては区分番号18, 27が申請対象となる。 特例として重複障がいにより上記区分に該当する障がいがあるが、上記以外の区分で参加申し込みをする場合は、事前申請により介助者の同伴が認められる。
水泳競技	<競技規則上可能な介助> ○スタート介助（入退水介助含む）：水中スタートの際、身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない選手。障がい区分11、13、17、19、22。 ○タッピング：障がい区分23※必ず介助が必要（50m種目では、スタート・ターンのサイド各1名、計2名が必要） 障がい区分24 <競技規則以外で可能な介助> ○入退水介助：障がい区分14、15、16 <競技規則以外で可能な同伴> ○情緒不安定：障がい区分26および同等の障がい重複する選手（他の選手に迷惑をかける場合に限る） ○種目の指示：障がい区分26および同等の障がい重複する選手（泳ぐ種目を理解できない場合に限る）
アーチェリー	原則アシスタントを認めるのは、障がい区分1の選手のみとする。
卓球	介助が必要な競技者については、申込時に介助者の入場申請ができる。 ただし、介助者はベンチ（アドバイザー席）に入ることができない。
フライングディスク	介助者として競技エリアへの入場を希望する者は、あらかじめ主催者の許可を得なければならない。許可を受けたものに限りビブスを着用し競技エリア内に入場することができる。
ボッチャ	車いす使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な者にはスポーツアシスタントが、ランプ使用者にはランプオペレーターが選手1名につき1名認める。